

# 港湾事業の事後評価説明資料

## 〔 伏木富山港（新湊地区） 旅客船ターミナル整備事業 〕

平成 19 年 12 月

北陸地方整備局

# 目 次

1. 伏木富山港の概要	1
1) 伏木富山港（新湊地区）の沿革	1
2) 伏木富山港（新湊地区）の概要	2
2. 事業の概要	4
1) 事業の目的	4
2) 事業の概要	5
3. 事業の効果	6
1) 効果の抽出	6
2) 交流機会の増加便益	7
3) 移動コスト削減効果	7
4) 残存価値	8
5) 費用便益分析結果	8
4. 事業効果の発現状況	9
1) 旅客船ターミナルの利用状況	9
2) 旅客船ターミナルを取巻く状況	9
5. 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性（案）	12
6. 計画調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性（案）	12

## 1. 伏木富山港の概要

### 1) 伏木富山港（新湊地区）の沿革

鎌倉時代前期	越中守護所が置かれ、放生津湊として繁昌
江戸時代	加賀藩の廻米輸送、北海道・奥羽との交易で栄える
1961年（昭和36年）	運輸省第一港湾建設局の直轄工事として富山新港の建設工事に着手（東防波堤工事）
1968年（昭和43年）	富山新港（伏木富山港新湊地区）開港
1986年（昭和61年）	特定重要港湾に指定
1989年（平成元年）	「日本海ミュージアム構想」を策定（富山県）
1992年（平成4年）	海王丸パーク供用開始
2002年（平成14年）	多目的国際ターミナル完成 臨港道路富山新港東西線建設着工
2003年（平成15年）	旅客船ターミナル供用開始
2007年（平成19年）	多目的国際ターミナル拡張工事完成

伏木富山港（新湊地区）全景



2) 伏木富山港（新湊地区）の概要  
 主要な利用状況を以下に示す。



① 旅客船ターミナル  
 旅客船ふ頭として利用



② 多目的国際ターミナル  
 コンテナ、中古自動車の利用



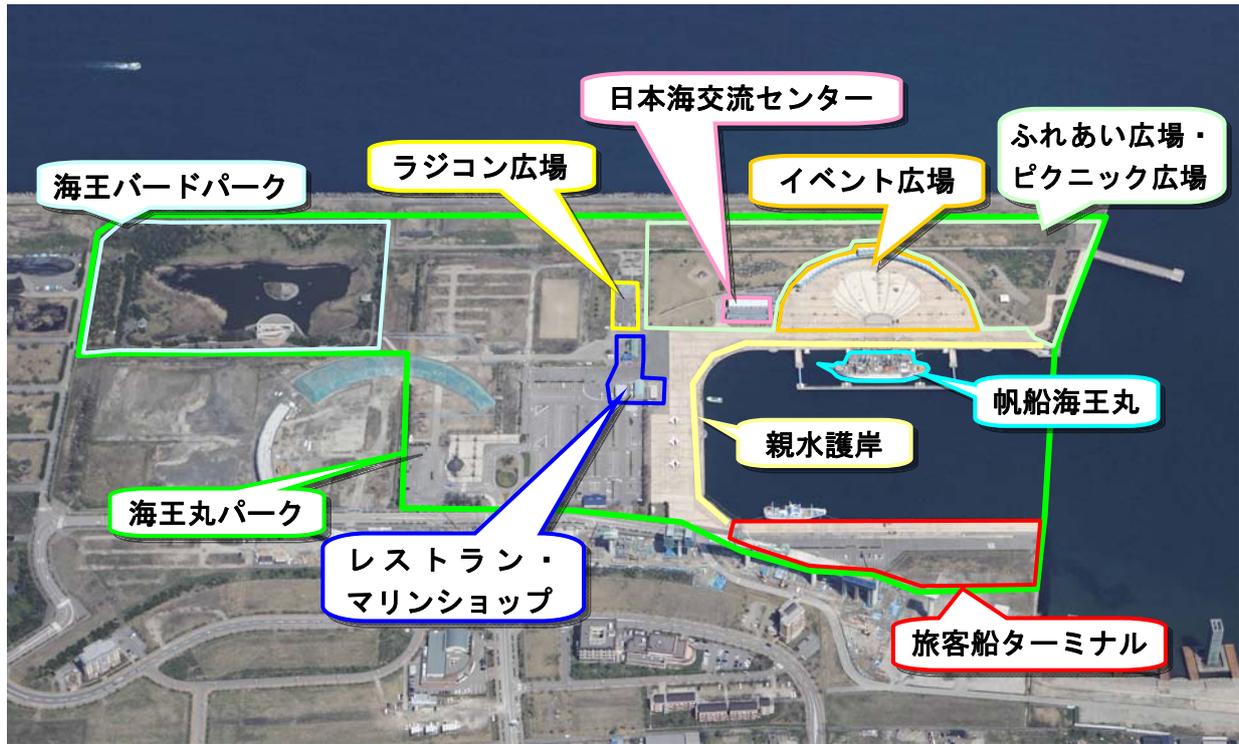
③ 中央1~4岸壁  
 オイルコークス、木材チップ、  
 アルミインゴット等の利用



④ 東1, 2岸壁  
 原木、製材の利用

⑤海王丸パーク

海王丸パーク全体平面図



旅客船ターミナル



イベント広場



日本海交流センター



帆船海王丸



親水護岸



ふれあい広場・ピクニック広場



ラジコン広場



レストラン・マリンショップ



海王バードパーク

## 2. 事業の概要

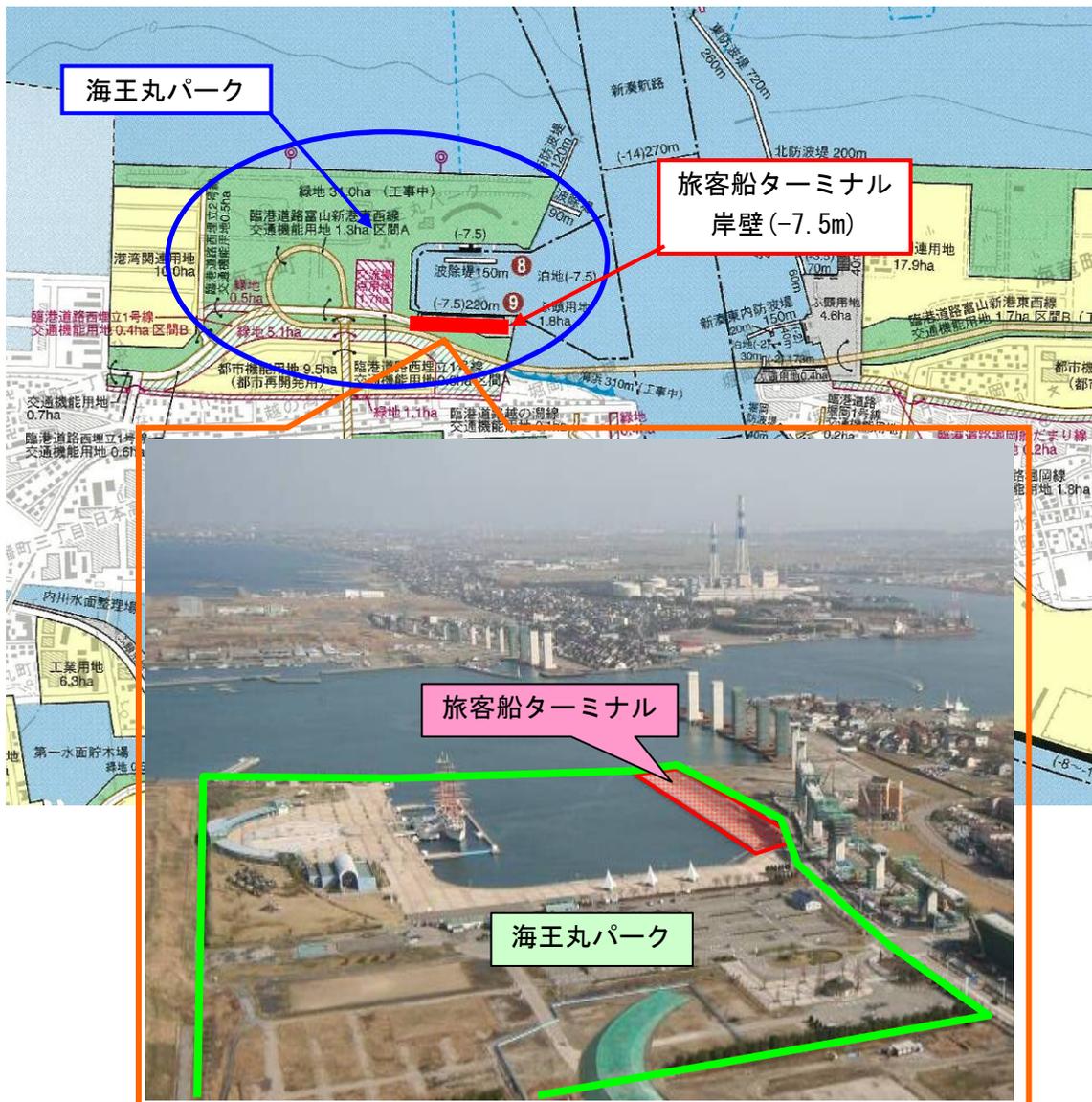
### 1) 事業の目的

新しい臨海工業地帯の流通拠点として整備されつつある新湊地区において、さらに快適で市民に親しまれる港づくりを目指し、帆船 海王丸を核とした多様なニーズに対応できる質の高い魅力的なマリンプロントの形成を目的に、平成元年に富山県で「日本海ミュージアム構想」を策定し、平成2年3月の港湾計画の一部変更において港湾緑地と旅客船バースを港湾計画に位置づけた。

日本海ミュージアム構想の中核施設である海王丸パークは平成4年に開園され、現在では年間80万人もの人々が訪れる“船と港と海を安全に体験できる憩いの場”としてひろく親しまれている。

旅客船ターミナルは、帆船海王丸が接岸する護岸の対岸に位置し、海王丸パークと一体の施設であり、増大するクルージング需要に対応すると共に、観光・レクリエーション拠点として港湾における賑わい空間の創出を図るため整備するものである。

旅客船ターミナルは平成3年に事業着手され平成15年に完成した。現在では豪華客船「ぱしふ いくびいなす」や「にっぽん丸」、大型浚渫兼油回収船「白山」等が寄港し、その入港を歓迎する式典や乗船イベント等には多くの人々が訪れている。



2) 事業の概要

事業費と整備期間

旅客船ターミナル及び泊地	220m
防波堤（除波）	90m
臨港道路	1.1ha
海王丸緑地	14.2ha
帆船海王丸	1隻
整備期間	平成1～15年
事業費	113億円

施設平面図



### 3. 事業の効果

#### 1) 効果の抽出

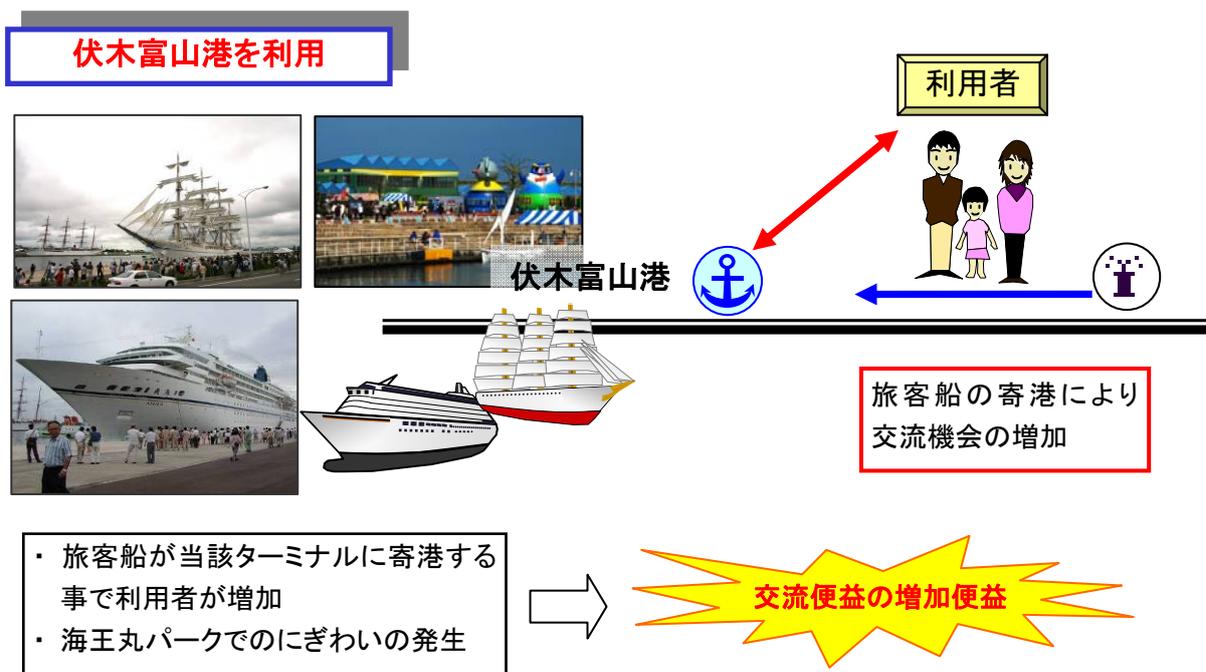
旅客船ターミナルと海王丸パークは一体の施設であり、海王丸パークの交流機会の増加は、旅客船ターミナルの交流機会の増加に繋がるものと考え、費用便益分析を実施した。

旅客船ターミナル、海王丸パークの整備における事業の効果抽出すると以下の表のようになる。また、効果のイメージを示す。

抽出される効果項目と把握方法

効果の分類		効果の項目	効果の把握方法
利用者	交流・レクリエーション	クルージング機会の増加	→ 定性的に把握する
		交流機会の増加	→ 便益を計測する
		外航クルーズ船の入港による国際観光収益の増加	→ 計測しない
	輸送・移動	移動コストの削減	→ 便益を計測する
供給者	収益	外航クルーズ船の入港に伴う営業収益の向上	→ 計測しない
地域社会	環境	良好な景観の形成	→ 定性的に把握する
	地域経済	港湾関連産業の雇用・所得の増大	→ 計測しない
		観光産業の雇用・所得の増大	
		建設工事による雇用・所得の増大	
	地域産業の安定・発展		
公共部門	租税	地方税・国税の増加	→ 計測しない

効果のイメージ（交流機会の増加）





(2) 便益の考え方

利用者数については、平成 24 年度に 26 隻の旅客船入港があると想定して推計し、旅客船の年間入港隻数と 1 隻当り利用者数の積を年間利用者数として求めた。

4) 残存価値

残存価値は、プロジェクトの供用期間 (50 年) 終了時点で残った資産を売却すると仮定した際の売却額と考える。

5) 費用便益分析結果

	単年度便益	備 考
交流機会の増加便益 (千円/年)	6,721,609	
移動コストの削減効果 (千円/年)	39,468	with 時 17,204 千円/年 without 時 56,672 千円/年
ふ頭用地の残存価値 (千円)	162,972	H19 富山県土地評価額

費用便益分析結果

事業期間	平成元年～平成 15 年	(平成 2 年～平成 15 年)
供用期間	平成 16 年～平成 65 年 (50 年間)	
総事業費 (C)	397 億円	( 91 億円)
総便益額 (B)	2,725 億円	( 103 億円)
CBR(B/C)	6.9	( 1.1 )
NPV(B-C)	2,328 億円	( 11.6 億円)

※ ( ) は、旅客船寄港時のみを対象とした費用便益分析結果であり、旅客船ターミナル事業費、旅客船寄港時の交流機会の増加便益、移動コストの削減効果より算出した。

## 4. 事業効果の発現状況

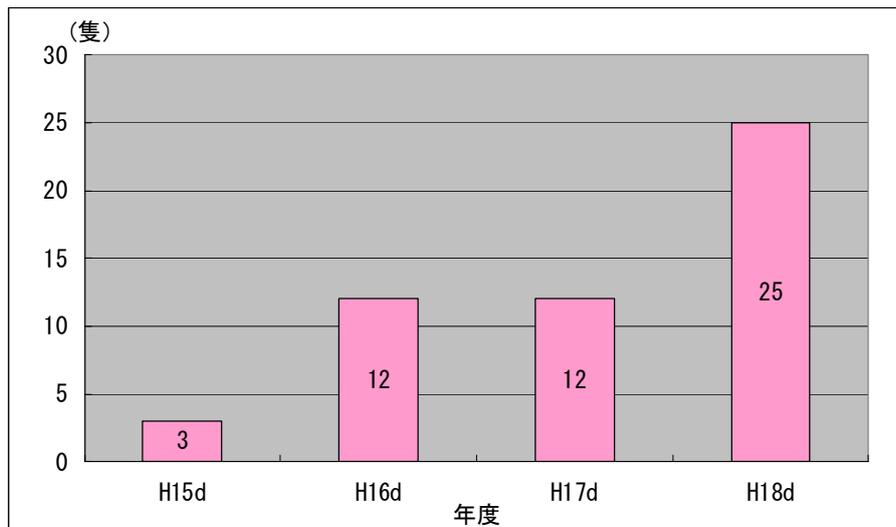
### 1) 旅客船ターミナルの利用状況

当該ターミナルの接岸船舶数の推移を以下に示す。

旅客船の寄港時には歓迎イベント等が行われ、旅客船ターミナルを中心とする景観を多くの人を楽しんでいる。

また、富山県総合教育センターの実習船「雄山丸」も当該ターミナルを利用している。「雄山丸」は県内高校の水産科の生徒を対象に漁業実習を実施しており、年間約160人の水産技術者の育成に貢献している。

旅客船ターミナルの接岸船舶の推移



### 2) 旅客船ターミナルを取り巻く状況

本施設は、環日本海における文化と人々の交流拠点を目指して計画された「日本海ミュージアム構想」の重要な施設の一つとして、同構想の中核施設である海王丸パーク内に整備された。

海王丸パークは、ふれあい広場や緑地、野鳥園（海王バードパーク）が整備されている他、施設のシンボルである帆船「海王丸」の「海の貴婦人」と呼ばれた美しい姿や、海越しの雄大な立山連峰など、良好な景観を創出している。

現在では年間約80万人が訪れる富山県内有数の観光地となり、季節毎のイベントを実施するほか、市民によるイベントも開催され、帆船「海王丸」では年間約10回の総帆展帆そうほんてんぱんを行うなど、近隣住民から観光客まで多くの人で賑わっている。平成18年7月に行われたイベント「海フェスタ

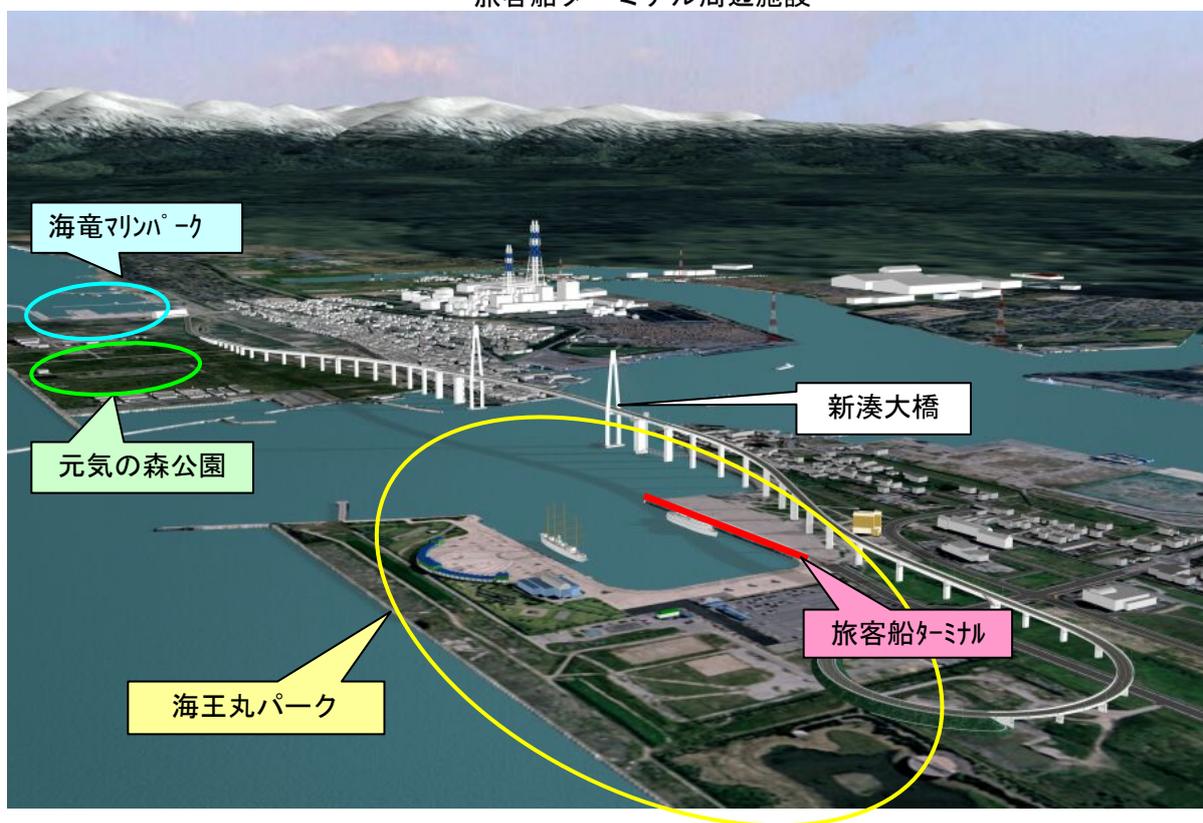
とやま」では、旅客船ターミナルに2代目海王丸が接岸し、2隻の帆船が並列に接岸する全国唯一の景観を見ようと多くの人々が海王丸パークに集まった他、秋篠宮さまが来場され、児童らと会話を交わすなど交流を深められた。なお、平成19年3月には北陸地方整備局より「みなとオアシス」として登録された。

また、伏木富山港（新湊地区）の東西を結ぶ臨港道路東西線「新湊大橋」が平成20年代前半に完成を予定しており、日本海側最大級のマリナーである海竜マリンパークや、東埋立緑地（元気の森公園）との連携により、更なる交流機会の増加が期待されている。

以上の事柄を背景として、射水市や射水商工会議所では積極的なポートセールス活動を実施し、本施設への旅客船誘致を図っている。

今日、旅客船によるクルージングは全国的にも注目をされており、平成18年の我が国のクルーズ人口は前年比13%の増加を示している。団塊の世代の退職が本格化したことが原因の一端とされているが、平成17年の国勢調査によると富山県は団塊の世代の人口比が全国一高く、今後、クルージングへの需要が増加することが期待される。

#### 旅客船ターミナル周辺施設



海王丸パークの賑わい



## 5. 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性（案）

事業目的である

- ・ 「日本海ミュージアム構想」に基づく魅力的なマリフロントの形成
- ・ 海王丸パークと一体となった交流拠点の創出
- ・ 船旅・クルージングのニーズに応じた観光・レクレーション拠点の形成

が図られており、今後の事業評価及び改善措置の必要性はない。

## 6. 計画調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性（案）

現段階においては、事業の効果が十分に発現されているところであるが、今後、定量的な

評価について、より信頼性のある手法を引き続き検討する必要がある。